

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	670400803
法人名	有限会社 敬愛会
事業所名	グループホーム こもれびの家
訪問調査日	平成 20 年 3 月 18 日
評価確定日	平成 20 年 5 月 1 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年4月23日

【評価実施概要】

事業所番号	670400803		
法人名	有限会社 敬愛会		
事業所名	グループホーム こもれびの家		
所在地 (電話番号)	山形県米沢市大字花沢3612番地の1 (電 話) 0238-37-8065		
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県山形市松波四丁目1番15号		
訪問調査日	平成20年3月18日	評価確定日	平成20年5月1日

【情報提供票より】(平成20年1月22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 6 月 14 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	12 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 12 人

(2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	新築/改築
建物構造	木造 造り	
	2階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷 金	有(円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 100 円
	または1日当たり 860 円		

(4) 利用者の概要(1月22日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	7 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 79.8 歳	最低	65 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	舟山病院 ・ 田中クリニック ・ 笹生歯科
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「笑顔が見たい」「役に立ちたい」を職員のスローガンとして、利用者一人ひとりと向き合える「個別の支援」が実践されており、また、野菜づくり、園芸、台所仕事、パワーリハビリ、学習療法、音楽療法などの場面でも、利用者とのコミュニケーションを充実させることにより、更にホームでの暮らしが楽しくなる働きかけも行われています。
「電解水除菌」や「24時間換気及び床暖房システム」等による快適な環境づくりに取り組んでおり、また、急変時の備えとして「AED(自動体外式除細動器)」の設置や「救急救命講習」の全職員受講も行われているホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価での改善課題「玄関の施錠時間を徐々に短くしていくための取り組みの検討」については、「利用者が無断で外出し、自宅に帰っていた」という事例があって以来、「利用者の外出の把握が困難である」という理由から玄関は常時施錠されており、改善への取り組みを進められずにいる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	②	職員全員で話し合って自己評価を行っているが、自己評価及び外部評価の意義や役割への理解をさらに深めながら、評価を活かした具体的な改善に向けた取り組みを続けていくことも期待される。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2~3ヶ月ごとに開催されており、「ホーム裏の河川敷遊歩道の環境整備」などについての話し合いも行われている。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 意見箱を設置したり、面会時に意見、不満、苦情などを言いやすい雰囲気づくりに努めているが、家族の意見、不満、苦情などを把握しきれていない状況もみられる。 家族等は意見や不満、苦情等を言い出しにくいということも踏まえ、個々の利用者の家族等の立場に立って確認してみることや、現在まで行ってきた以外の方法についても検討してみるなどにより、家族等の意見や不満、苦情等を正確に把握し、それらを個別の対応やホームの運営の中に、より反映させていく取り組みも期待される。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会の準会員になっており、春の清掃行事や夏祭りへの参加、敬老会への招待、中学生の職場体験や芸能ボランティアの受け入れなどにより、近隣地域とも交流している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「個人の尊厳を尊重します」「自立の支援をします」「笑顔の介護をします」「ゆとりのある介護をします」「安全な介護をします」という5項目をホーム理念として掲げているが、「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」という点も踏まえた、「地域密着型サービスとしての理念」の内容となっていない。	○	「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」という点も踏まえながら、利用者が住み慣れた地域の中で、その人らしく安心して暮らし続けることを支える「地域密着型サービスとしての理念」をつくりあげていく取り組みも期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関及びスタッフルームに「運営理念」「スローガン」を明示しており、職員は毎日の業務引継ぎ時に唱和している。また、会議の中でも振り返りを行い、具体的な実践につながるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の準会員になっており、春の清掃行事や夏祭りへの参加、敬老会への招待、中学生の職場体験や芸能ボランティアの受け入れなどにより、近隣地域とも交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で話し合って自己評価を行っているが、前回「要改善」であった「鍵をかけない工夫」については、「利用者が無断で外出し、自宅に帰っていた」という事例があって以来、「利用者の外出の把握が困難である」という理由から玄関は常時施錠されており、評価を活かした具体的な改善への取り組みを進められずにいる。	○	自己評価及び外部評価の意義や役割への理解をさらに深めながら、評価を活かした具体的な改善に向けた取り組みを続けていくことが期待される。 (「玄関の常時施錠」についての「取り組みを期待したい内容」は、外部評価No.26「鍵をかけないケアの実践」に記載)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2~3ヶ月ごとに開催されており、「ホーム裏の河川敷遊歩道の環境整備」などについての話し合いも行われている。		

山形県 グループホームこもれびの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営全般について、市役所担当者に電話、メール、訪問等で相談を行ったり、情報提供や指導を受けながら、円滑に連携が図られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	受診後や面会時の報告に加え、写真入りのホーム便りが定期的に家族に送られている。また、金銭管理を依頼された家族には、出納状況をその都度書面で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、面会時に意見、不満、苦情などを言いやすい雰囲気づくりに努めているが、家族の意見、不満、苦情などを把握しきれていない状況もみられる。	○	家族等は、意見や不満、苦情等を言い出しにくいということも踏まえ、個々の利用者の家族等の立場に立って確認してみることや、現在まで行ってきた以外の方法についても検討してみるなどにより、家族等の意見や不満、苦情等を正確に把握し、それらを個別の対応やホームの運営の中に、より反映させていく取り組みも期待される。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員が対応することが大事であり、利用者への影響を考慮して、職員の異動はできるだけ行わないようにしている。また、職員の交代があった場合には、先輩職員が新入職員と一緒に勤務シフトに入るようにし、利用者と早く馴染みの関係を築けるようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員育成の重要性を認識しており、職員と話し合いながら積極的に研修の機会を確保している。また、職員も「学び」について意欲的であり、カウンセリング、栄養調理、リハビリ、学習療法、救急救命講習等の研修を受講している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協議会の交換研修の受け入れ、地区グループホーム協議会への参加交流、近隣ホームとの交流で意見交換を行い、質の向上を目指している。		

山形県 グループホームこもれびの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 利用本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	野菜の収穫、お菓子づくり、年越しなどの行事を一緒に楽しみながら、学んだり互いに支えあう関係を築いている。また、職員は常に尊敬の念をもって利用者に接しており、利用者の苦労話に耳を傾けながら、「受容」や「共感」ができるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者ごとの担当職員が中心となって、本人の思いや意向の把握と家族や関係者から情報を得ることに努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者ごとの担当職員が中心となり、利用者本人・家族の希望を取り入れ、職員間でも意見を出し合いながら、個別具体的な計画をホーム独自の様式を用いて作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに介護計画の見直しを行うとともに、家族、本人の希望や入院などの状態変化時には、速やかに関係者と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。		

山形県 グループホームこもれびの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	利用者や家族が希望すれば、サービス利用開始前 のかかりつけ医にも通院できているが、ほとん どの利用者は、ホームの協力医療機関からの定期的な 往診や健康診断を受けている。また、精神科や歯科な どの医療機関にも受診することができるようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	重度化した場合や終末期の対応について、利用開始 時に家族へ十分な説明を行って同意を得ており、家族 や関係者と方針を共有しながら、ホームで看取った事 例がある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをして いない	利用者への言葉かけや対応は、一人ひとりの自尊心を 傷つけないように、全職員で振り返りを行いながら取り 組んでいる。また、個人の記録は外部の人の目に触れ ないようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れの中で、利用者の一人ひとりの体 調や気持ちを尊重しながら、居心地よく過ごせるよう に柔軟な対応をしている。		

山形県 グループホームこもれびの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者から献立の希望を聞いたり、作り方を教わったりしながら調理を利用者と職員と一緒に作り、同じ食事をして片付けをしている。また、行事食や外食も楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、利用者が希望すればいつでも入れる態勢であり、利用者の希望や状況に合わせて支援している。また、重度化した方は特殊浴槽を使用したり、入浴が難しい場合には清拭や足浴の対応も行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜づくり、園芸、調理、台所仕事、洗濯物干し、パワーリハビリ、学習療法、音楽療法、ちぎり絵、大正琴など、利用者一人ひとりとコミュニケーションを取りながら、楽しみの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、遊歩道の散歩、日向ぼっこ、足湯、ドライブなど、利用者の希望やその日の状況に合わせた外出を工夫している。また、利用者が仕事をしている場所や公園を巡ったり、馴染みの食堂で食事をするなど、利用者の担当職員が同行しての「思い出巡り」と名づけられた個別支援も行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	リビングに面している庭には、利用者も自由に出入りすることができるが、玄関は「利用者が無断で外出し、自宅に帰っていた」という事例があった以来、「利用者の外出の把握が困難である」という理由から常時施錠されている。	○	「鍵をかけないケアの実践」の取り組みの一つとして、「利用者の状態把握と状況分析のあり方」「徘徊等の認知症状への職員の関わり方と職員体制」「一日の過ごし方や日課」「センサーチャイムを活用した安全対策」「常時の施錠が本人や他利用者に与える影響」「他ホームでの取り組み状況」などについて、多方面からの検証が期待される。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導や地域の協力を得て、利用者も参加しての夜間を想定した総合防災訓練を実施している。また、定期的に職員への「防災教育」を実施しており、今後も引き続き、地域の支援を得ながら災害対策を進めていく予定である。		

山形県 グループホームこもれびの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状況に合わせ、お粥、刻み食などの調理法を工夫しており、必要な介助を行うようにしている。また、食事摂取量・水分量の記録や毎月の体重測定を行い、状態把握に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南向きのリビングは明るく、庭が見える開放的な空間となっており、「電解水除菌」や「24時間換気及び床暖房システム」等による、快適な環境づくりにも取り組んでいる。また、畳の小上がりスペースにはコタツも置かれ、利用者が自由にくつろげるようにしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	冷暖房、ベッド、クローゼット、洗面台が完備されており、使い慣れたタンス、位牌、孫や家族の写真、装飾品などが持ち込まれた、過ごしやすい居室となっている。		